

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

ロータリーで良いことをしよう

高田ロータリー
今年のスローガン

変化を楽しもう



ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021年度

国際ロータリー会長 **ホルガー・クナーク**
2560地区ガバナー **佐藤 真**
高田ロータリー会長 **大島 誠**
幹事 **伴 長門**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレツ TEL (025)526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員会：
齋藤 尚明・飯塚 宏佳・佐藤 信・川崎 直哉・齋藤 俊幸

第 26 回例会 ◆2月 19日(金)

No.26

会長挨拶 ●大島 誠



皆さん こんにちは。お元気でしょうか？

いよいよ日本国内でも新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。また、このところ首都圏での新規感染者数も減少してきており、春が近づくと共に明るい兆しが見えてきたようです。

さて、1月の豪雪に続き 再び大雪に見舞われました。過去の積雪の記録はどうなっているのか調べましたら、人里における積雪の世界記録は 昭和2年2月13日 中頸城郡寺野村（現在の上越市板倉区）で 27尺（8m18cm）との記録が高田測候所に残されているそうです。この年は年明けから40日間連続で雪が降り続いたと記録があるようです。また、観測所のある地点での世界記録は 関ヶ原の近く 伊吹山の山頂で 昭和20年2月14日 11m82cm だそうです。終戦の年は大雪だったと親から聞いたことがあります。この年 昭和20年2月16日 高田では3m77cmを記録しています。また、1969年1月1日には1日の降雪量としては最大の120センチを記録しているそうです。（今年は24時間降雪量103センチで最大とのこと）また、正確な記録かは微妙ですが、1666年の「越後大雪、高田積雪一丈（じょう）五尺（しゃく）（4.5m）」が有名で、この時、加賀藩の飛脚（ひきやく）が、「この下に高田あり」の立て札をたてたそうです。

高田はその年、大地震にも遭っているとのこと。旧暦で表わせば寛文5（1665）年1月27日、今暦の寛文6（1666）年2月1日であり、大雪も旧暦では65年のようである。つまり、雪と揺れとそれに伴う火災が同時に起きたこととなります。

今年の雪はこれで終わりにしてもらいたいものです。

出席報告

96.49%

メイクアップ

霜村 浩君 (2/20 ロータリー財団セミナー・補助金管理セミナー)

委員会報告

出席ニコニコBOX委員会

高坂光一君：去る2月2日、長女が二人目の孫を無事出産しました。“孫”……。気持ちだけは若く楽しんでいきます。

米山奨学委員会：寄付のお願い

幹事報告

配布物：週報No.25、抜粋のつづり
 回覧物：ガバナー月信 2月号、地区大会のご案内、
 高田駐屯地広報1号・号外
 報告：3/12分散夜例会について

3月の例会プログラム

例会日	プログラム	会場
3月5日	卓話 日本画家 川崎日香 様 演題 未定	デュオ セレッソ
3月12日	分散例会 <夜例会>	
3月19日	卓話 くびき野森林組合 組合長 横田 力 様 演題 未定	デュオ セレッソ
3月26日	卓話 地区ロータリー財団委員長 新保清久 様 演題 グローバル補助金について	デュオ セレッソ

会員卓話

長野県と信濃の国

八十二銀行 高田支店 市瀬 昌之君



長野県には「信濃の国」という県歌があります。1900年（明治33年）に長野師範学校の教諭だった浅井冽が作詞し北村季晴が曲を付けました。長野県は1971年の廃藩置県の直後は長野県と筑摩県の二つに分かれていました。その後両県が合併し今の長野県となっていますが、そのせいかどうかわかりませんが今も長野市と松本市は微妙な関係です。しかしこの「信濃の国」を歌うときは長野でも松本でもなく誰もが信州人になります。山や谷で仕切られた長野県を一つにまとめているとても大切な歌だと思います。

この歌は1番から6番まであり、その歌詞をすべて見ると長野県の姿が描き出されています。1番は地理、2番は山河の紹介、3番は産業、4番は名所、5番は偉人、6番は結びといった内容になっています。

途中「海こそなければものさわに、万ず足らわぬ事ぞなき」という歌詞が出てきます。「海はないけれど足りないものはない」という長野県の一番の悔しさが負け惜しみとなって書かれています。

観光名所には今は長野県の紹介に欠かせない上高地や軽井沢は出てきません。この歌ができたときにはまだ今のような観光地になっていなかったからです。いずれもこの歌ができたときには外国人によって観光地化が始まった頃でした。

偉人の中には新潟と縁のある人も多くいました。仁科盛信（歌詞では信盛）は武田信玄の五男ですがその妹の菊姫は上杉景勝の正妻になっています。佐久間象山には河井継之助や米百俵の小林虎三郎が師事しています。

いま新型コロナウイルスの影響でなかなか旅行にも行けない状況が続いていますが、コロナが収束したら是非お隣の県である「信濃の国」を訪れてみてください。

「信濃の国」

1番(長野県の地理(概要))	2番(長野県の地理(山・川))	3番(長野県の産業)	4番(長野県の名所・景勝地)	5番(長野県の偉人)	6番(結び)
信濃の国は十州に 境連ぬる国にして 聲ゆる山はいや高く 流るる川はいや遠し 松本伊那佐久善光寺 四つの平は肥沃の地 海こそなければ物さわに 万ず足らわぬ事ぞなき	四方に聳ゆる山々は 御嶽乗鞍駒ヶ岳 浅間には殊に活火山 いずれも国の鎮めなり 流れ淀まずゆく水は 北に犀川千曲川 南に木曾川天竜川 これまた国の固めなり	木曾の谷には真木茂り 諏訪の湖には魚多し 民のかせぎも豊かにて 五穀の実らぬ里もある しかのみならず桑とりて 蚕飼いの業の打ちひらけ 細きますがも軽からぬ 国の命を繋ぐなり	尋ねまほしき園原や 旅のやどりの寢覚の床 木曾の棧かけし世も 心してゆけ久米路橋 くる人多き筑摩の湯 月の名にたつ嬢捨山 しるき名所と風雅士が 詩歌に詠てぞ伝えたる	旭將軍義仲も 仁科の五郎信盛も 春台太宰先生も 象山佐久間先生も 皆此国の人にして 文武の誉たぐいなく 山と聳えて世に仰ぎ 川と流れて名は尽ず	吾妻はやとし日本武 嘆き給いし碓氷山 穿つ隆道二十六 夢にもこゆる汽車の道 みち一筋に学びなば 昔の人にや劣るべき 古來山河の秀でたる 国は偉人のある習い